

高校生の悩みと求める援助の特質

筑波大学大学院（博）心理学研究科 佐藤 有耕

筑波大学心理学系 山本 誠一

筑波大学心理学系 加藤 隆勝

Personal problems and support among high school students

Yuhkoh Satoh, Seiichi Yamamoto and Takakatsu Kato (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305, Japan*)

To investigate personal problems (distress) among high school students, following three questionnaires were compiled and administered to 526 high school students :

- a) about contents of and reasons for their problems,
- b) about support they wish from various significant persons,
- c) about support they will offer to friends in problem situations.

Principal results were as follows:

- a) Problems on study and learning were the most frequent in rank and they were felt "something that can't be helped".
- b) The students expected support from teachers, mothers, and friends whenever the supporters found support to be necessary. On the other hand, they expected support from fathers and siblings only when they asked support.
- c) The students were willing to offer support only when they were personally asked in all five problem situations, which revealed the lack of sympathetic atmosphere among high school students.

Key words : personal problems, distress, support, high school students.

これまで詫摩 (1981), 津留・西平 (1968), 加藤 (1968), などによる青少年の悩みに関する論究や, さまざまな悩みの調査研究が行われてきたが, 大西ら (1965, 1966) を除けば, これまで悩みの内容から悩みの解決法にまでアプローチした研究は少ない。本研究では, 青年期にある高校生が, 悩み解決のために, 両親, 教師, 友人に対してどのような援助を期待しているかを明らかにすることを通して, 親として, 教師として, 友人としてのあり方を検討することを第一の目的とする。

具体的に本研究では, 現在の高校生の悩みの内容とその理由を明らかにするとともに, 彼らが悩みをどのように解決しようとしているか, 特に他者から

の援助を求めている場合, 誰に, どのような援助を期待しているかを明らかにすることを目的としている。なお, 悩みをもつ友人に対して高校生がどのような援助的かわりをもちたいと考えているかについても調査し, 自己の悩みの多さとの関係を分析する。

研究 I 悩みの内容とその理由に関する分析

目的

高校生がどのような悩みをより多くもっているのかについて, 大西ら (1965, 1966) の結果と比較検討する。また, それぞれの悩みの主な理由となるも

のを明らかにすることも目的とする。

方法

大西ら(1965)の学校生活の中での悩みに関する32項目をもとに、現在の高校生にとって重要であると考えられる悩みを記述している項目を取捨選択した。そこから全く同一の9項目、表現を多少改めた7項目、多少内容を改編した5項目に加え、オリジナルな3項目を付け加えた24項目からなる調査票を構成した。項目の構成にあたっては、筆者らを含む4人の青年心理学研究者の討議を経て、最も代表的な項目と考えられるものを選択した。回答は「ハイ」、「イエ」の2つの選択肢のどちらかを選択させた。また、悩みの理由に関しては、24項目それぞれに関して、理由となっていると考えられることがらを4個ずつ提示し、いずれか一つを選択させた。提示した内容は大西らの研究では3項目ずつであったが、本研究では4項目に増やして行った。

調査対象

調査は埼玉県私立女子高校1校、千葉県公立高校(普通科)2校、千葉県公立商業高校1校で実施した。有効な回答の総数は798名であったが今回はそのうち、高校2年生526(男子192, 女子285, 性別不明者49)名の結果について報告する。大西らの研究でも高校2年生は1, 3年生に比べてより多くの悩みを持つとされており、われわれの女子校における結果もそれを裏付けるものであったからである。調査の実施期間は1989年6月, 9月であった。

結果と考察

1. 悩みがあると回答した者の男女別の比率

悩みがあると回答した者(「ハイ」を選択した者)の比率を男女別にみたものがTable 1である。問題番号は男女全体を母数としたときの悩みの比率の高いものの順に付けられている。

まず全体的傾向をみると、上位に(特に1位~5位)勉強や学校、授業に関する悩みが多いことが特徴的である。6位の進路の問題、7位の大人社会に対する批判、8位の体格・容姿への劣等感、9位の異性の友人ができない悩み、10位の自分の性格への嫌悪など青年期に比較的特有とされる悩みについては、およそ半数の者が悩みありと回答している。逆に下位には、いじめの悩みや身体的虚弱などが見られ、これらの悩みを持つ生徒は少ないことがわかる。ただ、いじめの悩みに関しては、数こそ少ないが(それでも数字上では約1クラスに1人の割合であることになる)、きわめて深刻な悩みとも考えられ、軽視できない問題であろう。

次に男女の悩みを比較すると、「上手な勉強の仕方がわからなくて困る」「体格や容姿について他の

人にひけめを感じる」「自分の性格が好きになれない」などで、女子と男子では女子の方が悩んでいる人が多いことがわかる。また悩みの総数の点では、女子の方が男子より有意に悩みが多いという結果も得られている(男子=8.79個, 女子=10.45個, $t=4.20$, $df=368.34$, $p<.01$)。

2. 1964年と1989年の結果の比較

大西ら(1965)の先行研究の項目と全く同一の9項目、表現を多少改めた7項目に関して、1989年の高校2年生と1964年の高校2年生の差異を比較したものがTable 2, 3, 4, 5である。これを見ると、地域的な差に関しても考慮する必要はあるが、25年前(昭和40年)の青年と現代(平成元年)の青年の悩みの変化が読み取れる。10%以上の増減を基準にすれば、男子では、悩みの比率が増えた項目は「学校がつまらない」の1項目であるが、比率が減った項目は多く、「大人の社会は矛盾にみちており認める気になれない」「人生をどう生きたらよいかわからない」「何のために勉強するかわからない」「成績の悪い科目があって困っている」などの7項目にもなる。女子でも、悩みの比率が増えた項目は「学校がつまらない」「体格や容姿について他の人にひけめを感じる」の2項目だが、比率の減った項目の数は増えて「人生をどう生きたらよいかわからない」「大人の社会は矛盾にみちており認める気になれない」「何のために勉強するのかわからない」「将来どういう方向へ進んだらよいかわからない」「心から信頼する友だちができない」の5項目であった。この結果は、必ずしも悩みが少なくなり、よりよい適応状態にあることを意味しているとは考えにくく、むしろ実存的な生き方に関わるような問題への無関心やしらけを反映するものとも考えられる。

3. 悩みの理由の男女別・年代別の分析

悩みの理由に関しては、悩みとして選択された比率が男女どちらか一方でも半数以上の者が悩みとしている10項目について検討した。選択された10項目はTable 1の男女全体を母数としたときの悩みの比率の高いものの第1位から第10位までと一致したので、以降ではこの上位10個の悩みにしぼって分析検討を行うものとする。また、ここでの悩みの内容の表記はTable 6にあるような省略した表記を用いる。

それぞれの悩みの理由に関して、4つの理由を回答数の多い順に並べたものが、Table 6である。これを見ると悩みによってその理由はさまざまであり、それぞれの悩みによって特有の理由が、やはり多く回答されていることが読み取れる。ただ、1「成績の悪い科目」の悩みの理由で、30%~40%の人が

Table 1 悩みの内容と割合 (%)

		男子 (192)	女子 (285)	全体 (526)
1. 成績の悪い科目があって困っている	はい	78.6(151)	89.8(256)	85.2(448)
	いいえ	21.4(41)	9.8(28)	14.6(77)
	無回答	0.0(0)	0.4(1)	0.2(1)
2. 勉強する気になかなかない	はい	82.8(159)	85.3(243)	84.4(444)
	いいえ	17.2(33)	14.4(41)	15.4(81)
	無回答	0.0(0)	0.4(1)	0.2(1)
3. 上手な勉強の仕方がわからなくて困る	はい	58.9(113)	81.4(232)	71.7(377)
	いいえ	41.1(79)	18.6(53)	28.3(149)
	無回答	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)
4. 学校の授業がつまらない	はい	65.6(126)	73.0(208)	71.3(375)
	いいえ	34.4(66)	26.3(75)	28.3(149)
	無回答	0.0(0)	0.7(2)	0.4(2)
5. 先生の指導についてなっとくしにくいことがある	はい	63.5(122)	64.6(184)	65.6(345)
	いいえ	36.5(70)	34.7(99)	34.0(179)
	無回答	0.0(0)	0.7(2)	0.4(2)
6. 将来どういう方向へ進んだらよいかわからない	はい	54.7(105)	60.4(172)	58.0(305)
	いいえ	45.3(87)	39.3(112)	41.8(220)
	無回答	0.0(0)	0.4(1)	0.2(1)
7. 大人の社会は矛盾にみちており認める気になれない	はい	49.5(95)	60.7(173)	56.5(297)
	いいえ	50.5(97)	38.2(109)	43.0(226)
	無回答	0.0(0)	1.1(3)	0.6(3)
8. 体格や容姿について他の人にひけめを感じる	はい	30.7(59)	63.9(182)	50.4(265)
	いいえ	69.3(133)	35.4(101)	49.2(259)
	無回答	0.0(0)	0.7(2)	0.4(2)
9. 異性の友だちがなかなかできない	はい	51.0(98)	52.3(149)	49.4(260)
	いいえ	49.0(94)	47.4(135)	50.0(263)
	無回答	0.0(0)	0.4(1)	0.6(3)
10. 自分の性格が好きになれない	はい	35.4(68)	54.7(156)	47.9(252)
	いいえ	63.5(122)	44.9(128)	51.5(271)
	無回答	1.0(2)	0.4(1)	0.6(3)
11. 何のために勉強するのかよくわからない	はい	38.5(74)	48.1(137)	44.3(233)
	いいえ	60.9(117)	51.6(147)	55.1(290)
	無回答	0.5(1)	0.4(1)	0.6(3)
12. 学校生活がつまらない	はい	39.6(76)	45.6(130)	43.3(228)
	いいえ	60.4(116)	54.0(154)	56.3(296)
	無回答	0.0(0)	0.4(1)	0.4(2)

		男子 (192)	女子 (285)	全体 (526)
13. 人生をどう生きたらよいかわからない	はい	40.1(77)	44.9(128)	43.0(226)
	いいえ	59.9(115)	55.1(157)	57.0(300)
	無回答	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)
14. 親の考えと自分の考えにはズレがある	はい	34.9(67)	42.8(122)	40.3(212)
	いいえ	64.6(124)	56.5(161)	59.1(311)
	無回答	0.5(1)	0.7(2)	0.6(3)
15. クラスがつまらない	はい	28.1(54)	30.2(86)	28.9(152)
	いいえ	71.4(137)	69.8(199)	70.7(372)
	無回答	0.5(1)	0.0(0)	0.4(2)
16. 親が自分の能力を十分に理解していない	はい	22.4(43)	26.3(75)	24.9(131)
	いいえ	77.1(148)	73.3(209)	74.7(393)
	無回答	0.5(1)	0.4(1)	0.4(2)
17. 人生に希望がもてない	はい	20.8(40)	26.0(74)	24.0(126)
	いいえ	78.6(151)	74.0(211)	75.9(399)
	無回答	0.5(1)	0.0(0)	0.2(1)
18. 家のふんいきがおもしろくない	はい	20.8(40)	23.9(68)	23.6(124)
	いいえ	79.2(152)	75.8(216)	76.2(401)
	無回答	0.0(0)	0.4(1)	0.2(1)
19. 心から信頼する友だちができない	はい	19.8(38)	23.2(66)	21.3(112)
	いいえ	80.2(154)	76.8(219)	78.7(414)
	無回答	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)
20. 将来の職業選択について周囲と意見が合わない	はい	12.0(23)	17.5(50)	15.4(81)
	いいえ	87.5(168)	82.1(234)	84.2(443)
	無回答	0.5(1)	0.4(1)	0.4(2)
21. 友人との関係がうまくいかない	はい	10.9(21)	14.4(41)	12.9(68)
	いいえ	88.5(170)	85.3(243)	86.5(455)
	無回答	0.5(1)	0.4(1)	0.6(3)
22. 先生に話したいことがあっても言い出せない	はい	9.9(19)	12.3(35)	11.2(59)
	いいえ	90.1(173)	87.7(250)	88.6(466)
	無回答	0.0(0)	0.0(0)	0.2(1)
23. 身体が弱くて困っている	はい	6.8(13)	2.8(8)	4.0(21)
	いいえ	93.2(179)	96.8(276)	95.8(504)
	無回答	0.0(0)	0.4(1)	0.2(1)
24. いじめやいやがらせをされる	はい	3.6(7)	1.1(3)	2.1(11)
	いいえ	95.8(184)	98.6(281)	97.5(513)
	無回答	0.5(1)	0.4(1)	0.4(2)

注) 悩みの内容の番号は悩みがあると回答した者の多い順に付けられている。

カッコ内は人数。

Table 2 1964年と1989年の悩みの比較—増加した悩みについて— (男子)

		1964(122)	1989(192)
4. 学校の授業がつまらない	はい	43.4	65.6(126)
8. 体格や容姿について他の人にひけめを感じる	はい	23.0	30.7(59)
2. 勉強する気になかなかない	はい	76.2	82.8(159)
20. 将来の職業選択について周囲と意見が合わない	はい	7.4	12.0(23)
5. 先生の指導についてなっとくしにくいことがある	はい	59.8	63.5(122)

注) 1989年と1964年の比率差が大きい順に並べられている。
数値は%, カッコ内は人数。

Table 3 1964年と1989年の悩みの比較—減少した悩みについて— (男子)

		1964(122)	1989(192)
7. 大人の社会は矛盾にみちており認める気になれない	はい	73.8	49.5(95)
13. 人生をどう生きたらよいかわからない	はい	59.0	40.1(77)
11. 何のために勉強するのかよくわからない	はい	53.3	38.5(74)
1. 成績の悪い科目があって困っている	はい	92.6	78.6(151)
19. 心から信頼する友だちができない	はい	33.6	19.8(38)
3. 上手な勉強の仕方がわからなくて困る	はい	71.3	58.9(113)
6. 将来どういう方向に進んだらよいかわからない	はい	61.5	54.7(105)
16. 親が自分の能力を十分に理解していない	はい	27.9	22.4(43)
9. 異性の友だちがなかなかできない	はい	54.1	51.0(98)
18. 家のふんいきがおもしろくない	はい	22.1	20.8(40)
17. 人生に希望がもてない	はい	21.3	20.8(40)

注) 1989年と1964年の差が大きい順に並べられている。
数値は%, カッコ内は人数。

Table 4 1964年と1989年の悩みの比較—増加した悩みについて— (女子)

		1964(92)	1989(285)
4. 学校の授業がつまらない	はい	56.5	73.0(208)
8. 体格や容姿について他の人にひきめを感じる	はい	51.1	63.9(182)
20. 将来の職業選択について周囲と意見が合わない	はい	8.7	17.5(50)
18. 家のふんいきがおもしろくない	はい	17.4	23.9(68)
5. 先生の指導についてなっとくしにくいことがある	はい	60.9	64.6(184)
16. 親が自分の能力を十分に理解していない	はい	23.9	26.3(75)

注) 1989年と1964年の差が大きい順に並べられている。
数値は%, カッコ内は人数.

Table 5 1964年と1989年の悩みの比較—減少した悩みについて— (女子)

		1964(92)	1989(285)
13. 人生をどう生きたらよいかわからない	はい	80.4	44.9(128)
7. 大人の社会は矛盾にみちており認める気になれない	はい	83.7	60.7(173)
11. 何のために勉強するのかよくわからない	はい	65.2	48.1(137)
6. 将来どういう方向に進んだらよいかわからない	はい	72.8	60.4(172)
19. 心から信頼する友だちができない	はい	34.8	23.2(66)
9. 異性の友だちがなかなかできない	はい	58.7	52.3(149)
1. 成績の悪い科目があって困っている	はい	94.6	89.8(256)
3. 上手な勉強の仕方がわからなくて困る	はい	85.9	81.4(232)
2. 勉強する気になかなかない	はい	89.1	85.3(243)
17. 人生に希望がもてない	はい	29.3	26.0(74)

注) 1989年と1964年の差が大きい順に並べられている。
数値は%, カッコ内は人数.

Table 6 代表的な悩みの理由

	男子 (192)	女子 (285)	全体 (526)
1. 「成績の悪い科目」 その科目の基礎がわからないから その科目がなんとなく好きになれないから 能力がたりないから 担当の先生との間がうまくいかないから	31.5(46) 37.0(54) 25.3(37) 6.2(9)	33.9(86) 30.3(77) 27.6(70) 8.3(21)	34.1(150) 32.3(142) 26.8(118) 6.8(30)
2. 「勉強する気になれない」 ただなんとなく 机にすわってもほかのことが気になるから テレビ・ラジオなどの番組が気になるから 家庭の環境が望ましくないから	45.2(70) 31.6(49) 20.0(31) 3.2(5)	40.2(96) 38.1(91) 18.4(44) 3.3(8)	42.1(183) 35.4(154) 19.3(84) 3.2(14)
3. 「上手な勉強の仕方」 自分なりにやってはいるが、うまくいかないから 原因がよくわからない 勉強の仕方を教えてもらわないから 習ったやり方では納得できないから	49.1(55) 28.6(32) 13.4(15) 8.9(10)	61.2(142) 25.4(59) 7.3(17) 6.0(14)	58.0(218) 26.6(100) 8.5(32) 6.9(26)
4. 「授業がつまらない」 先生にユーモア（おもしろみ）がないから ただなんとなく 先生の教え方になじめないから 先生の教えてくれることが理解できないから	27.0(33) 28.7(35) 24.6(30) 19.7(24)	37.7(77) 27.5(56) 18.6(38) 16.2(33)	34.6(127) 27.5(101) 20.7(76) 17.2(63)
5. 「先生の指導」 先生が自分の考えをおしつけるから 先生の指導がわかりにくいから 先生が不公平であるから 先生が、自分たちの考えをとりあげてくれないから	42.4(50) 31.4(37) 14.4(17) 11.9(14)	40.9(72) 29.5(52) 15.3(27) 14.2(25)	42.6(141) 28.7(95) 15.7(52) 13.0(43)
6. 「将来の方向」 自分の能力や適性がどの方向に向かわからないから 進学先や就職先の内容をまだよく知らないから 自分の将来について深く考えたことがないから 何をやってもうまくやる自信がないから	44.2(46) 21.2(22) 25.0(26) 9.6(10)	55.0(93) 21.3(36) 13.0(22) 10.7(18)	49.7(149) 22.0(66) 18.0(54) 10.3(31)
7. 「大人社会の矛盾」 大人のすることには裏と表があるから 大人は自分勝手なことが多いから 金とコネ（縁故）が幅をきかせているから 大人は理想を失っているから	41.8(38) 28.6(26) 18.7(17) 11.0(10)	45.8(76) 23.5(39) 21.1(35) 9.6(16)	43.5(123) 25.8(73) 20.5(58) 10.2(29)
8. 「体格や容姿」 体格や容姿について気にかかることがあるから なんとなく自信がないから 体格や容姿によって他の面まで評価されるから 他の人が自分の体格や容姿についてとやかく言うから	50.0(29) 25.9(15) 15.5(9) 8.6(5)	64.2(115) 25.7(46) 6.1(11) 3.9(7)	60.9(159) 25.7(67) 8.4(22) 5.0(13)
9. 「異性の友だち」 積極的に近づく勇気がないから 近づく機会がないから なぜか好かれなから 周囲から変な誤解を受けるから	58.8(57) 25.8(25) 9.3(9) 6.2(6)	39.5(58) 53.7(79) 4.1(6) 2.7(4)	47.7(122) 41.4(106) 7.0(18) 3.9(10)
10. 「自分の性格」 わがままだから 気が弱いから 気が強すぎるから 性格が暗いから	32.8(21) 51.6(33) 1.6(1) 14.1(9)	49.3(69) 28.6(40) 13.6(19) 8.6(12)	45.9(106) 34.2(79) 10.4(24) 9.5(22)

注) 理由は全体での比率の高い順に並べられている。
数値は%, カッコ内は人数。

「その科目がなんとなく好きになれないから」、2「勉強する気になれない」の悩みの理由でも半数近くの人が「ただなんとなく」、4「授業がつまらない」の悩みの理由でも30%近くの人が「ただなんとなく」、8「体格や容姿」の悩みでも約30%が「なんとなく自信がないから」を回答しているが、これらはどれも悩みの理由を、意識できずに曖昧にさせているとも考えられ、悩みが人間的成長ではなく、しらけや無気力へとつながっていくことを示唆するものとも考えられよう。

研究Ⅱ 悩みの解決法についての分析

目的

高校生が悩みをどのように解決しようとしているかについて、また父親、母親、きょうだい、教師、友人、先輩に対してどのような援助を期待しているかに関して検討する。

方法

悩みの24項目それぞれについて、「自分で解決できると思う」、「先生からの援助・助言がほしい」、「親やきょうだいからの援助・助言がほしい」、「友人やクラスの人からの援助・助言がほしい」、「どうしようもないと思う」の5種類の選択肢を提示し、そのいずれかひとつを選択させた。また、それとは別に父親、母親、きょうだい、教師、友人、先輩に対してどのような援助を期待しているかを4種類の選択肢からひとつ選択させた。その内容は「いつでもきびしく援助・助言してほしい」、「必要と思ったらいつでもやさしく援助・助言してほしい」、「自分が相談したときだけ援助・助言してほしい」、「そっと見守ってほしい」であった。

調査対象

調査対象は調査Ⅰと同一の高校2年生526(男子192, 女子285, 性別不明者49)名である。

結果と考察

1 悩みの解決の仕方の男女別の分析

さきに挙げた10項目の悩みについて、その解決の仕方をまとめたものがTable 7であるが、これを見ると、全体的には、2「勉強する気になれない」、10「自分の性格」などの悩みは「自分で解決できると思う」との回答が多く、3「上手な勉強の仕方がわからない」、6「将来の方向」の悩みでは「先生からの援助・助言がほしい」の回答が多く、9「異性の友達がなかなかできない」悩みでは「友人やクラスの人からの援助・助言がほしい」の回答が多く、また4「授業がつまらない」、5「先生の指導」、7「大人社会の矛盾」、8「体格や容姿のひけめ」な

どの悩みでは、「どうしようもないと思う」という回答を選ぶ人が多いことがわかる。

2 悩みの援助期待についての男女別の分析

自分の悩みに対して、他者からどんな援助を期待するかという援助期待についてまとめたものがTable 8である。これを見ると、先生、母親、友人、先輩から援助、助言してもらう場合には、「自分が相談したときだけ援助、助言してほしい」という回答が多く選ばれていることがわかる。また、「いつでもきびしく援助、助言してほしい」という仕方を期待するものは少ないことが読み取れる。これらのことは、先生や、母親、友人、先輩からの援助、助言では、日常のことなど比較的素直に聞き入れやすいが、父親や他の兄弟には、本当に大事な時を除いてはたやすく関与や干渉されることは望まないという青年期の特性を反映する結果と考えられる。

3 悩みの多さと援助期待の関係についての分析

悩みありとした項目の総数の順に並べたものから上位25%と下位25%を男女それぞれ悩みの総数の多い群(H群)、悩みの総数の少ない群(L群)として、援助期待との関係を検討したものがTable 9である。男子H群は $\bar{X}=14.73$ 個, $SD=2.05$, $RANGE=12-20$ 、女子H群の平均値は $\bar{X}=15.39$ 個, $SD=1.88$, $RANGE=13-22$ であった。男子L群の平均値は $\bar{X}=3.38$ 個, $SD=1.70$, $RANGE=0-6$ 、女子L群の平均値は $\bar{X}=5.61$ 個, $SD=1.70$, $RANGE=0-8$ であった。それぞれの援助者ごとに選択肢の「いつでもきびしく援助、助言してほしい」、「必要と思ったらいつでもやさしく援助、助言してほしい」を積極的な援助期待群、「自分が相談したときだけ援助、助言してほしい」、「そっと見守ってほしい」を消極的な援助期待群として、男女別にL群—H群間で χ^2 検定を行ったところ、有意な差がみられたのは男子の父親から援助・助言してもらう場合のみ、悩みの多い者が「自分から相談したときだけ…」、あるいは「そっと見守って…」などのように条件付き・消極的な援助を求めている($\chi^2=5.81$, $df=1$, $p<.05$)。しかし、全体的にみるとそのような傾向が推察されたため、続いて、Table 9の援助者をひとまとめにし、同様に検定した。その結果、男女ともに悩みの多いものは、「自分から相談したときだけ…」、あるいは「そっと見守って…」などのように条件付き・消極的な援助を求めていることが認められた(男子, $\chi^2=9.97$, $df=1$, $p<.01$; 女子, $\chi^2=4.72$, $df=1$, $p<.05$)。逆に悩みの少ないものは、日常的・積極的な援助を求めていると言える。悩みの多い高校生の場合、大人の援助者の一方的な判断による介入は自立への侵害と感じら

Table 7 代表的な悩みの解決の仕方

	男子 (192)					女子 (285)					全体 (526)				
	自思 分う で 解 決 で き る と	先言 生 か ら の 援 助 ・ 助	親の や 援 き 助 よ ・ 助 だ 言 い か ら	友ら 人 の や 援 ク 助 ラ ・ ス 助 の 言 人 か	ど思 う う し よ う も な い と	自思 分う で 解 決 で き る と	先言 生 か ら の 援 助 ・ 助	親の や 援 き 助 よ ・ 助 だ 言 い か ら	友ら 人 の や 援 ク 助 ラ ・ ス 助 の 言 人 か	ど思 う う し よ う も な い と	自思 分う で 解 決 で き る と	先言 生 か ら の 援 助 ・ 助	親の や 援 き 助 よ ・ 助 だ 言 い か ら	友ら 人 の や 援 ク 助 ラ ・ ス 助 の 言 人 か	ど思 う う し よ う も な い と
1. 「成績の悪い科目」	31.1 46	22.3 33	0.7 1	8.1 12	37.8 56	32.5 83	26.7 68	0.8 2	9.8 25	30.2 77	30.9 137	25.5 113	0.7 3	9.5 42	33.4 148
2. 「勉強する気になれない」	48.7 75	4.5 7	1.9 3	4.5 7	40.3 62	51.7 123	3.4 8	3.8 9	5.9 14	35.3 84	49.1 213	3.5 15	2.8 12	5.3 23	39.4 171
3. 「上手な勉強の仕方」	25.0 28	33.0 37	2.7 3	14.3 16	25.0 28	24.8 57	33.5 77	3.0 7	23.0 53	15.7 36	24.3 91	31.3 117	2.7 10	21.9 82	19.8 74
4. 「授業がつまらない」	10.7 13	11.5 14	1.6 2	3.3 4	73.0 89	8.4 17	19.7 40	0.0 0	2.5 5	69.5 141	10.7 39	16.2 59	0.5 2	2.7 10	69.9 255
5. 「先生の指導」	2.5 3	15.3 18	0.0 0	6.8 8	75.4 89	1.7 3	19.1 34	2.2 4	7.3 13	69.7 124	2.1 7	17.8 59	1.8 6	7.2 24	71.1 236
6. 「将来の方向」	32.0 32	31.0 31	13.0 13	10.0 10	14.0 14	22.6 37	37.2 61	21.3 35	8.5 14	10.4 17	25.9 75	35.9 104	16.9 49	9.0 26	12.4 36
7. 「大人社会の矛盾」	5.5 5	2.2 2	2.2 2	4.4 4	85.7 78	0.6 1	1.2 2	3.6 6	0.6 1	94.0 156	2.1 6	1.8 5	3.5 10	2.5 7	90.1 256
8. 「体格や容姿」	17.9 10	0.0 0	3.6 2	7.1 4	71.4 40	28.7 52	0.6 1	2.2 4	3.3 6	65.2 118	27.0 70	0.8 2	3.1 8	3.9 10	65.3 169
9. 「異性の友だち」	26.9 25	3.2 3	2.2 2	23.7 22	44.1 41	16.1 23	0.7 1	0.7 1	32.9 47	49.7 71	20.6 51	1.6 4	1.2 3	29.4 73	47.2 117
10. 「自分の性格」	50.0 33	1.5 1	0.0 0	19.7 13	28.8 19	38.0 57	1.3 2	3.3 5	24.7 37	32.7 49	40.7 98	1.2 3	2.1 5	22.4 54	33.6 81
平 均	25.5 270	13.8 146	2.6 28	9.4 100	48.7 516	23.7 453	15.4 294	3.8 73	11.3 215	45.8 873	24.1 787	14.7 481	3.3 108	10.7 351	47.2 1543

注) 上段の数値は%, 下段およびカッコ内は人数.

Table 8 援助してもらおう相手による援助期待の違い

	男子 (192)	女子 (285)	全体 (526)
1. 先生から援助, 助言してもらおう場合 必要と思ったらいつでもやさしく援助, 助言してほしい 自分が相談したときだけ援助, 助言してほしい そっと見守っていてほしい いつでもきびしく援助, 助言してほしい	44.1(83) 37.8(71) 8.0(15) 10.1(19)	46.3(129) 39.8(111) 8.6(24) 5.4(15)	43.8(226) 38.0(196) 10.3(53) 7.9(41)
2. 父親から援助, 助言してもらおう場合 自分が相談したときだけ援助, 助言してほしい 必要と思ったらいつでもやさしく援助, 助言してほしい そっと見守っていてほしい いつでもきびしく援助, 助言してほしい	35.0(63) 28.9(52) 17.8(32) 18.3(33)	36.9(100) 28.4(77) 28.4(77) 6.3(17)	35.2(176) 27.8(139) 25.2(126) 11.8(59)
3. 母親から援助, 助言してもらおう場合 必要と思ったらいつでもやさしく援助, 助言してほしい 自分が相談したときだけ援助, 助言してほしい そっと見守っていてほしい いつでもきびしく援助, 助言してほしい	34.6(63) 36.3(66) 19.8(36) 9.3(17)	46.9(130) 30.7(85) 14.1(39) 8.3(23)	41.5(211) 32.9(167) 16.7(85) 8.9(45)
4. きょうだいから援助, 助言してもらおう場合 自分が相談したときだけ援助, 助言してほしい 必要と思ったらいつでもやさしく援助, 助言してほしい そっと見守っていてほしい いつでもきびしく援助, 助言してほしい	45.3(78) 23.8(41) 23.3(40) 7.6(13)	48.1(126) 24.4(64) 21.8(57) 5.7(15)	45.6(218) 24.5(117) 23.2(111) 6.7(32)
5. 友だちから援助, 助言してもらおう場合 必要と思ったらいつでもやさしく援助, 助言してほしい 自分が相談したときだけ援助, 助言してほしい いつでもきびしく援助, 助言してほしい そっと見守っていてほしい	46.8(87) 31.7(59) 13.4(25) 8.1(15)	53.1(147) 24.5(68) 19.9(55) 2.5(7)	49.8(255) 27.0(138) 17.4(89) 5.9(30)
6. 部活・サークルの先輩から援助, 助言してもらおう場合 必要と思ったらいつでもやさしく援助, 助言してほしい 自分が相談したときだけ援助, 助言してほしい そっと見守っていてほしい いつでもきびしく援助, 助言してほしい	35.2(63) 34.1(61) 16.2(29) 14.5(26)	36.9(97) 34.6(91) 14.1(37) 14.4(38)	35.7(175) 34.1(167) 15.7(77) 14.5(71)

注) 援助期待は全体での比率の高い順に並べられている。
数値は%, カッコ内は人数。

れるのではなからうか。特に女子に比べて男子にこの傾向が強く見られた。

調査Ⅲ 悩みをもつ友人への援助についての分析

目的

高校生が悩みをもつ友人に対してどのような援助的関わりをもちたいと考えているかについて検討する。

方法

悩み場面の記述を5種類提示し、それぞれ6種類

の選択肢からひとつ援助の仕方を選択させた。悩み場面の内容は「1. 友人がクラスの中でいじめやいやがらせにあって悩んでいる」、「2. 友人が成績が下がって、勉強が手につかずひとりで悩んでいる」、「3. 友人が進路の問題で親と意見が合わず、自分のことをわかってくれないと悩んでいる」、「4. クラスにいつもひとりでさびしそうにしている人がいる」、「5. 友人がそれまでの自分の生きかたに疑問を持ち、これからどう生きたらいいのか悩んでいる」であった。選択肢の内容は「友だちとして積極的に相手の悩みを聞き、その解決のため努力する」、「友だちのために先生や他の友人にも相談する」、「むこ

Table 9 悩みの総数による援助期待のちがい

	悩みの総数の少ない群 (L群)				悩みの総数の多い群 (H群)			
	いつでも きびしく	いつでも やさしく	相談したと きだけ	そっと見守 ってほしい	いつでも きびしく	いつでも やさしく	相談したと きだけ	そっと見守 ってほしい
1. 先生から								
男子	18.8(9)	41.7(20)	35.4(17)	4.2(2)	4.2(2)	43.8(21)	43.8(21)	8.3(4)
女子	4.3(3)	52.2(36)	34.8(24)	8.7(6)	4.3(3)	47.1(33)	40.0(28)	8.6(6)
2. 父親から								
男子	20.0(9)	42.2(19)	24.4(11)	13.3(6)	17.4(8)	19.6(9)	45.7(21)	17.4(8)
女子	11.9(8)	29.9(20)	34.3(23)	23.9(16)	3.0(2)	22.7(15)	39.4(26)	34.8(23)
3. 母親から								
男子	12.8(6)	44.7(21)	31.9(15)	10.6(5)	8.9(4)	31.1(14)	35.6(16)	24.4(11)
女子	7.2(5)	55.1(38)	20.3(14)	17.4(12)	7.2(5)	39.1(27)	36.2(25)	17.4(12)
4. きょうだいから								
男子	4.4(2)	35.6(16)	37.8(17)	22.2(10)	14.6(6)	12.2(5)	51.2(21)	22.0(9)
女子	8.2(5)	24.6(15)	47.5(29)	19.7(12)	7.2(5)	21.7(15)	43.5(30)	27.5(19)
5. 友だちから								
男子	8.3(4)	56.3(27)	29.2(14)	6.3(3)	19.6(9)	41.3(19)	34.8(16)	4.3(2)
女子	19.7(14)	52.1(37)	22.5(16)	5.6(4)	20.6(14)	48.5(33)	27.9(19)	2.9(2)
6. 部活・サークル の先輩から								
男子	8.9(4)	48.9(22)	24.4(11)	17.8(8)	25.0(11)	22.7(10)	38.6(17)	13.6(6)
女子	19.1(13)	36.8(25)	32.4(22)	11.8(8)	14.5(10)	42.0(29)	33.3(23)	10.1(7)

注) 数値は%, カッコ内は人数。

うから相談にきたら、話を聞いてあげる」、「そっとみまもりながらつきあう」、「何もしない」、「その他」であった。

調査対象

調査対象は調査Ⅰと同一の高校2年生526(男子192, 女子285, 性別不明者49)名である。

結果と考察

1 友人への援助についての男女別の分析

悩んでいる友人に対して、高校生がどのような援助的関わりをもちたいと考えているかについてまとめたものがTable10である。これを見ると、ほとんどすべての項目に関して「むこうから相談にきたら、話を聞いてあげる」と回答したものがもっとも多くなっている。例外的に、女子において、「1. 友人がクラスの中でいじめやいやがらせにあって悩んでいる」場面では、「友だちとして積極的に相手の悩みを聞き、その解決のため努力する」がもっとも多くなっている。やはり「いじめ」の問題は緊急の事態と考えられているようである。概して、女子の方が男子に比べて援助に関してより積極的であり、男

子は「何もしない」がほとんどの場面で10%以上選ばれている。

2 悩みの多さと友人への援助の関係についての分析

研究Ⅱの3.と同様に、男女それぞれ悩みの総数の多い群(H群)、悩みの総数の少ない群(L群)で、友人への援助との関係をまとめたものがTable11である。選択肢の「友だちとして積極的に相手の悩みを聞き、その解決のため努力する」、「友だちのために先生や他の友人にも相談する」を積極的援助群、「むこうから相談にきたら、話を聞いてあげる」、「そっとみまもりながらつきあう」、「何もしない」を消極的援助群として男女別にL群—H群間で χ^2 検定を行ったところ、有意な差がみられたのは女子の「3. 友人が進路の問題で親と意見が合わず、自分のことをわかってくれないと悩んでいる」場合のみであった。そこでは悩みの多い者は「むこうから相談にきたら、話を聞いてあげる」、「そっとみまもりながらつきあう」、「何もしない」の消極的な援助の仕方で対応しようとしていることが示された(χ

Table 10 友人への援助の仕方

	男子 (192)	女子 (285)	全体 (526)
1. 友人がクラスの中でいじめやいやがらせにあって悩んでいる 「むこうから相談にきたら、話を聞く」 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」 「先生や他の友人にも相談する」 「そっとみまもりながらつきあう」 「何もしない」 「その他」	43.7(83) 21.1(40) 10.5(20) 13.7(26) 8.4(16) 2.6(5)	32.1(90) 37.9(106) 16.8(47) 8.9(25) 0.4(1) 3.9(11)	36.8(191) 31.4(163) 13.7(71) 11.2(58) 3.7(19) 3.3(17)
2. 友人が成績が下がって、勉強が手につかずひとりで悩んでいる 「むこうから相談にきたら、話を聞く」 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」 「何もしない」 「先生や他の友人にも相談する」 「そっとみまもりながらつきあう」 「その他」	40.3(77) 20.4(39) 14.1(27) 10.5(20) 12.0(23) 2.6(5)	46.4(130) 34.6(97) 4.6(13) 6.4(18) 5.7(16) 2.1(6)	43.6(226) 29.2(151) 8.5(44) 8.1(42) 8.1(42) 2.5(13)
3. 友人が進路の問題で親と意見が合わず、自分のことをわかってくれないと悩んでいる 「むこうから相談にきたら、話を聞く」 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」 「そっとみまもりながらつきあう」 「先生や他の友人にも相談する」 「何もしない」 「その他」	45.0(86) 20.9(40) 14.7(28) 6.8(13) 11.0(21) 1.6(3)	50.9(143) 29.9(84) 8.2(23) 7.8(22) 2.5(7) 0.7(2)	48.2(251) 26.3(137) 10.6(55) 7.9(41) 6.1(32) 1.0(5)
4. クラスにいつもひとりでさびしそうにしている人がいる 「むこうから相談にきたら、話を聞く」 「そっとみまもりながらつきあう」 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」 「何もしない」 「先生や他の友人にも相談する」 「その他」	36.6(70) 20.9(40) 13.6(26) 20.4(39) 6.3(12) 2.1(4)	36.2(101) 19.0(53) 24.7(69) 8.6(24) 8.2(23) 3.2(9)	35.5(184) 20.1(104) 19.7(102) 13.5(70) 8.5(44) 2.7(14)
5. 友人がそれまでの自分の生きかたに疑問を持ち、これからどう生きていいのかわかっている 「むこうから相談にきたら、話を聞く」 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」 「そっとみまもりながらつきあう」 「先生や他の友人にも相談する」 「何もしない」 「その他」	46.3(88) 20.5(39) 11.6(22) 7.9(15) 10.5(20) 3.2(6)	47.7(134) 32.4(91) 8.5(24) 5.7(16) 3.2(9) 2.5(7)	46.0(239) 27.7(144) 9.8(51) 7.1(37) 6.7(35) 2.7(14)

注) 数値は%, カッコ内は人数.

$\chi^2 = 6.91, df = 1, p < .01$). しかし、研究Ⅱと同様、全体的にみるとそれに近い傾向が推察されたため、続いて、Table11の5種類の援助場面をひとまとめにして検定を行った。その結果、女子の悩みの多いものは、悩みの少ないものに比べて、より消極的な援助の仕方に対応しようとしていることが示された ($\chi^2 = 16.00, df = 1, p < .001$). この傾向は男子にはみられなかった。研究Ⅱの、悩みの多い高校

生は消極的な援助を求めがちであるということ を考慮すると、女子は自分が求めるような援助の仕方でも友人にも接しようとしていると考えられよう。

要 約

本研究の目的は、現在の高校生の悩みの内容とその要因を明らかにするとともに、彼らが悩みをどの

Table 11 悩みの総数と友人への援助の仕方

	悩みの総数の少ない群 (L群)		悩みの総数の多い群 (H群)	
	男子	女子	男子	女子
1. 友人がクラスの中でいじめやいやがらせにあって悩んでいる				
1 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」	25.0(12)	35.8(24)	23.9(11)	36.9(24)
2 「先生や他の友人にも相談する」	6.3(3)	25.4(17)	8.7(4)	9.2(6)
3 「むこうから相談にきたら、話を聞く」	47.9(23)	26.9(18)	41.3(19)	41.5(27)
4 「そっとみまもりながらつきあう」	8.3(4)	10.4(7)	21.7(10)	12.3(8)
5 「何もしない」	12.5(6)	1.5(1)	4.3(2)	0.0(0)
2. 友人が成績が下がって、勉強が手につかずひとりで悩んでいる				
1 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」	16.7(8)	33.8(23)	23.9(11)	27.7(18)
2 「先生や他の友人にも相談する」	14.6(7)	8.8(6)	10.9(5)	1.5(1)
3 「むこうから相談にきたら、話を聞く」	47.9(23)	47.1(32)	34.8(16)	60.0(39)
4 「そっとみまもりながらつきあう」	4.2(2)	8.8(6)	13.0(6)	0.0(0)
5 「何もしない」	16.7(8)	1.5(1)	17.4(8)	10.8(7)
3. 友人が進路の問題で親と意見が合わず、自分のことをわかってくれないと悩んでいる				
1 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」	14.6(7)	32.9(23)	26.1(12)	20.3(14)
2 「先生や他の友人にも相談する」	6.3(3)	11.4(8)	4.3(2)	2.9(2)
3 「むこうから相談にきたら、話を聞く」	56.3(27)	48.6(34)	39.1(18)	60.9(42)
4 「そっとみまもりながらつきあう」	10.4(5)	5.7(4)	17.4(8)	8.7(6)
5 「何もしない」	12.5(6)	1.4(1)	13.0(6)	7.2(5)
4. クラスにいつもひとりでさびしそうにしている人がいる				
1 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」	16.7(8)	28.4(19)	10.6(5)	15.2(10)
2 「先生や他の友人にも相談する」	4.2(2)	7.5(5)	8.5(4)	10.6(7)
3 「むこうから相談にきたら、話を聞く」	39.6(19)	38.8(26)	36.2(17)	39.4(26)
4 「そっとみまもりながらつきあう」	16.7(8)	20.9(14)	25.5(12)	21.2(14)
5 「何もしない」	22.9(11)	4.5(3)	19.1(9)	13.6(9)
5. 友人がそれまでの自分の生きかたに疑問を持ち、これからどう生きていいのかわからないと悩んでいる				
1 「積極的に相手の悩みを聞き、解決のため努力」	16.7(8)	36.2(25)	20.0(9)	25.4(17)
2 「先生や他の友人にも相談する」	8.3(4)	10.1(7)	4.4(2)	6.0(4)
3 「むこうから相談にきたら、話を聞く」	54.2(26)	46.4(32)	46.7(21)	55.2(37)
4 「そっとみまもりながらつきあう」	10.4(5)	5.8(4)	11.1(5)	11.9(8)
5 「何もしない」	10.4(5)	1.4(1)	17.8(8)	1.5(1)

注) 数値は%, カッコ内は人数。

ように解決しようとしているか(研究Ⅰ), 特に他者からの援助を求めている場合, 誰に, どのような援助を期待しているか(研究Ⅱ), 悩みをもつ友人に対して高校生がどのような援助のかかわりをもちたいと考えているか(研究Ⅲ)を明らかにすることであった。

本研究では, 大西ら(1965)の学校生活の中での悩みに関する32項目をもとに, 一部改編および追加作成した24項目に加えて, 他者からの援助期待の6項目, 友だち援助の5項目からなる計35項目の質問票を構成し, 首都圏の高校生526名に実施した。

その結果, 研究Ⅰでは, 1965年の結果と同様, 勉強や進学に関する悩みが上位にあり, 他者からの援

助を期待している者より, どうしようもないと思っている者が多いこと等が明らかとなった。研究Ⅱでは, 相手によって求める援助期待が異なり, 父親や兄弟には自分が相談したときだけ援助を期待し, 母・先生・友だち・先輩には必要と思ったらいつでも優しく援助を期待している傾向がうかがわれた。研究Ⅲでは, ほとんどすべての項目に関して「むこうから相談にきたら, 話を聞いてあげる」と回答したものがもっとも多く, 必要以上の介入はしないが, 援助を求められれば相談にのるといった, 高校生の距離を置いた友だちへの関わり方が明らかとなった。

付記

調査の実施にあたり、私立淑徳与野高校教育相談センター小島しげ子、桜井良子、千葉県立松戸東高校小澤美代子の各先生にご協力を頂きました。記して謝意を表します。そして実際に調査に回答して頂いた高校生の皆さんにも心より謝意を表します。また、本研究をまとめるにあたり、筑波大学人間学類学生（当時）星ゆかりさん、皆川悦子さんにご協力を頂きました。厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 加藤隆勝 1968 青年期の悩み 明治図書
 桂 広介 1974 悩み 児童臨床心理学事典 内山喜久雄(監) 岩崎学術出版, 540-541.
 △大西誠一郎・久世敏雄・三輪弘道・田中鉄也・加藤隆勝 1965 学校生活への青年の適応の問題(1), 名古屋大学教育学部紀要12巻, 1-22.
 大西誠一郎・久世敏雄・田中鉄也・加藤隆勝・三輪弘道 1966 学校生活への青年の適応の問題(2), 名古屋大学教育学部紀要, 13巻, 87-105.
 詫摩武俊(編) 1981 思春期の悩み 福村出版
 津留 宏・西平直喜 1968 現代青年の悩み 心理学入門講座新版 大日本図書

—1990.9.30受稿—